

UDC信州の役割は、市町村職員と一緒に考え行動する「伴走支援」！

R4. 3時点

【取組の概要】

UDC信州は、令和元年8月に公・民・学が連携して設立した広域型・ネットワーク型のUDC（アーバンデザインセンター）です。都道府県が中心となって設立した初のUDCであり、3つの理念のもと活動を行っています。



【担当者インタビュー】

信州地域デザインセンター（UDC信州）
コーディネーター 倉根明德さん



【UDC信州オフィス】

信州のまちづくり拠点



【実施中のプロジェクトの一例（詳細はUDC信州のWEBサイトをご覧ください）】

しなの鉄道沿線地域の回遊性向上PJ（シェアサイクル導入など）



ウォークアブル関連PJ（社会実験など）



Q. UDC信州が設立されたきっかけは？

以前は「まちづくりは市町村の所管」という認識がありましたが、地域（広域）連携、公・民・学連携といったキーワードが重要になってきたことから、県も一緒にまちづくりを進めていくべきという結論に至りました。

Q. どんな活動をしていますか？

支える、育む、発信するの3つの活動に取り組んでいます。中心となっている活動が「支える」であり、市町村からの相談に対して、地域で求められているものを一緒に考えています。まちなかウォークアブルに関連するようなセミナーを開催したり、他都市の事例を発信することもあります。

Q. UDC信州だからこそできていること、意識的に取り組んでいることは？

情報提供やアドバイスだけではなかなか取組みは進みません。「どうすればいいの？」に対して「こんな事例ありますよ」ではなく「一緒に考えましょう」というスタンスで取り組んでいます。県庁ではなく現場で伴走すること、そして、公・民・学の多彩なメンバーが在籍していることがUDC信州の強みだと感じています。

Q. 全国のウォークアブルまちづくりの担当者（特に都道府県の担当者）に対して一言！

ステークホルダーが複雑に絡み合うまちづくりの現場では「調整役」の存在が欠かせませんが、多くの情報やネットワークを持つ都道府県職員はその調整役に適していると思います。ぜひ各地域のプロジェクトで調整役となり、歩きたくなる（暮らしたくなる）まちを増やしていきましょう！